カナ&ダビンの～

２０２１TOMONI取材！

井上佳奈（いのうえかな）さん

皆さん、こんにちは！

私は日本語学部3年生、井上佳奈（いのうえかな）です！

学部で行われたTOMONIイベントについてお伝えしたいと思います。

こんにちは！私は日本語学部２年生、シン・ダビンです！

では、今からTOMONIイベントについて詳しく見てみましょう！

シン・ダビンさん

Q1. いつ、どこで、どんなイベントが開催されましたか？

5/28（金）2時から5時まで、**D110**で**TOMONI学習イベント**が行われました。TOMONIというイベントは、日本語の学習者が自分の日本語能力を発揮して、特定のテーマについて発表する大会のことで、大きく分けて**朗読大会**と**プレゼンテーション大会**の二つがありました。発表者たちは皆、優勝を目指して頑張りました！

Q2. TOMONIにどんな人が参加しましたか？

発表する学生、一般参加者、審査員など、**約１２０人**の方々が参加してくださいました。一般参加者はzoomで参加した方と、D110で参加した方がいらっしゃいました。

Q3. どんなコンテストが行われましたか。

日本語朗読大会

参加者は、日本語融合学部の学生のみで、日本語能力がA水準である必要があります。**朗読時間**は**２分以内**で、作品は、**詩、エッセイ、絵本、童話**などで、審査基準は日本語の発音、表現力、日本語の流暢さなどです。

「学部長賞」を受賞したチームには**10万ウォン**、同じく、**「人気賞」**を受賞したチームにも**10万ウォン**が与えられました。また、受賞者以外の**参加者全員**には**「入選」の5万ウォン**が与えられました。

↑朗読大会

日本語プレゼンテーション大会

個人部門は「韓国の食文化」について **4 分間発表**しました。発表者は、韓国の食文化の魅力を紹介しました。韓国の食文化が分からない日本人が発表を見て、「これおいしそう！」、「韓国の食文化の由来が分かった！」と思うように発表した方が優勝を収めました！

団体部門では、「日本の大学生にオンライン交流会を提案しよう」というテーマで、**5 分間発表**しました。グループの発表者は、交流会の主題を設定し、交流会の目的や効果、具体的な企画などを発表しました。多くの人が（日本人の学生も、韓国人の学生も）参加したくなるような企画を提案するのが発表の課題でした！

審査基準は内容、構成、PPT、表現力、発音などで、部門別の賞金は 1 位 1 5 万ウォン、2 位 10 万ウォン、3 位 8 万ウォン、4 位 5 万ウォンでした。

↑プレゼンテーション大会

Q4.　会場の雰囲気はどうでしたか？

大会が始まってすぐは、発表者の皆さんから緊張感が伝わってきていました。**朗読大会**は**静かな雰囲気**で、会場全体が朗読を集中して聞いていました。大会が進んでいくうちに、中間で**「なるほどランキング」**や抽選会などのイベントが行われて、会場の**雰囲気が和らぎました。**

その後、**プレゼンテーション大会**が行われて、会場の雰囲気が**一気に明るく**なりました。特にチーム部門では、発表者の皆さんが**大きな声で楽しそうに発表する**姿がとても印象的でした。発表者の皆さんがそれぞれ、**魅力満載の発表**を見せてくださいました。

シン・ダビンさん

※「なるほどランキング」って何？

コロナで学生たちが会えない中で、ほかの皆は何を考えているのか気になりませんか？それで、**みんなの考えを共有**するように、**オンライン投票**をその場で行いました！「なぜ日本語を学び始めたか」、「釜山外大に入学した理由は？」、「会ってみたい日本人は？」など、5つの質問が準備されました。参加した皆さんの斬新な答えを覗くことができました。

「なるほどランキング」は**一般参加者**も、**イベントに参加できる**ように企画しました！**QRコード**だけで、オンライン投票ができて、ほとんどの方がアンケートに答えてくださいました！学生の皆、私と同じ意見を持っているなと思って、**共感**しました。**「なるほど！」**という言葉が自然に出てくるほど、**面白いコーナー**だったと思います！

Q5.　審査員、発表者、企画者のインタビュー

審査員（松浦先生 ）

取材者「**学生たちの発表**はどうでしたか？」

松浦先生「みなさんとても**緊張していらっしゃった**し、**練習**もたくさんしたと分かりました。 メモを見ないで覚えて話しているグループもいて**素晴らしかった**です。」

取材者「TOMONIを通して、**生徒たちは何を学んだ**と思いますか？」

松浦先生「発表した方はもちろん**日本語の勉強になった**と思いますし、ZOOMで参加した方々も**刺激を受けた**と思います。この大会に出ている人達は日本語のやる気がある人たちだと思うので、そんなやる気のある方々を見て**刺激を受けられたのではないでしょうか**。それから、今は（コロナの影響で）先輩や同級生とつながる機会がなくて、「自分は一人だ」と感じてしまう人もいると思いますが、この大会を通して「自分は一人じゃない、**みんな頑張っている**んだ」と分かってくれたらいいなと思いました。」

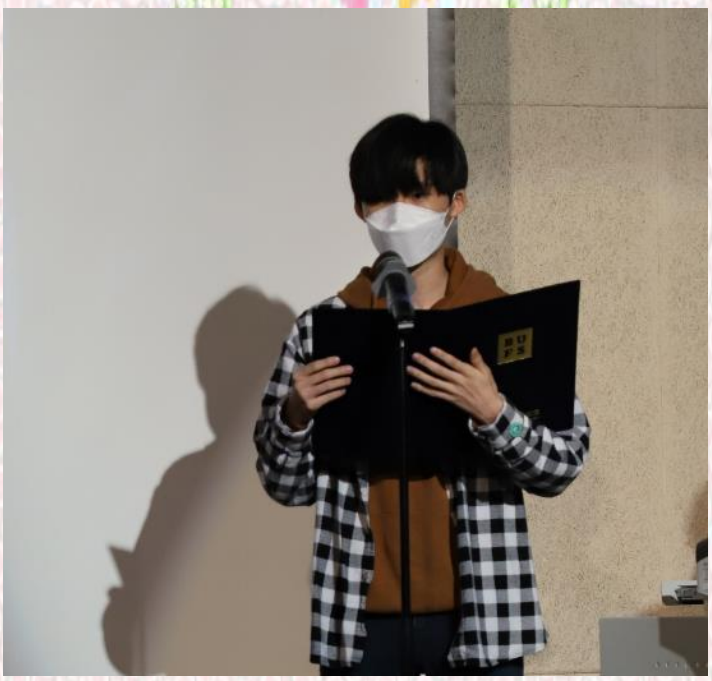
朗読部門　人気賞の受賞者（クォン・ヌンさん）

取材者「TOMONIに**参加したきっかけ**は何ですか？」

クォン・ヌンさん「僕はもともと、**声の録音やアフレコを普段からやっている**ので、この大会を通して**友達を作れたら**いいなと思って参加しました。」

取材者「**人気賞**を受賞されましたが、**感想**を聞かせてください。」

クォン・ヌンさん「人気賞をもらって、友人から「君は声を使う仕事が向いてるね」と言ってもらったんですが、声だけでなく**表現力にも注目してみてください**！」



↑クォン・ヌンさん

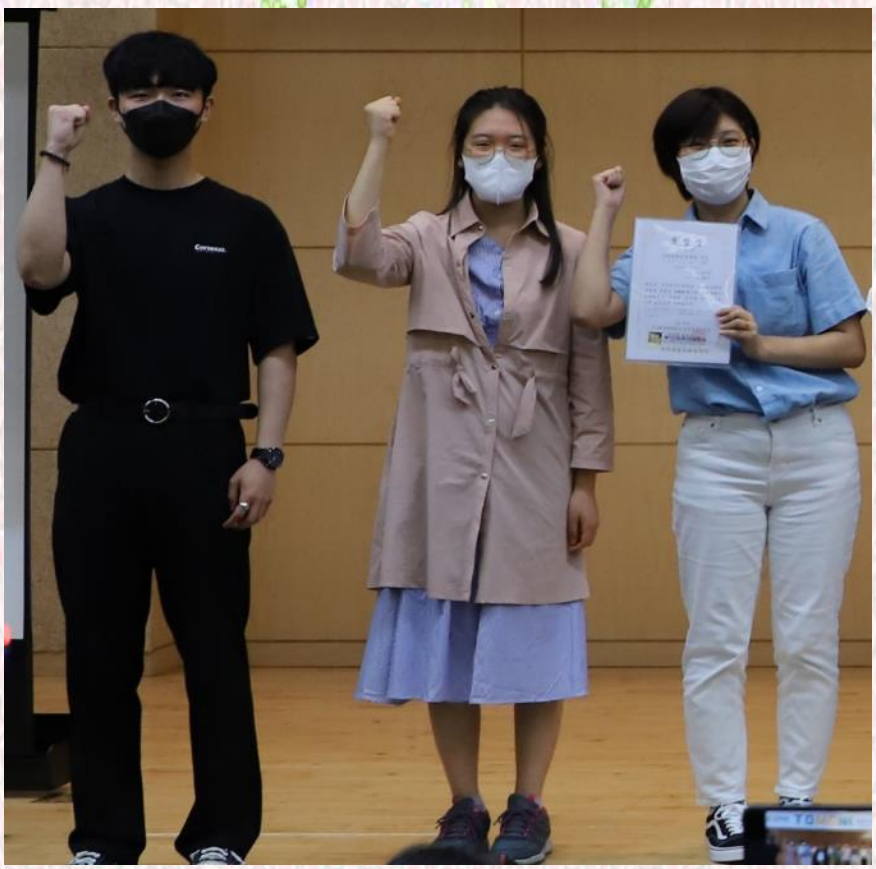
プレゼンテーション大会
チーム部門　優勝チーム（とん勝つチーム）

取材者「**発表の準備**は具体的に**どんな風**にされましたか？」

とん勝つチーム「発表の準備は、一番初めはみんなでいろんな**アイディアを出し合いました**。それからそのアイディアをまとめてみて、先生にも質問したりしました。**先生からのフィードバックをもらいながら**少しずつ作品を**アップグレードする感じで**進めていました。そして最終的に、**どのように表現すればいいか**などを確認しあいました。前日には**舞台でどう動くか**も考えました。」

取材者「次回TOMONIに参加する方々に**アドバイス**をお願いします！」

とん勝つチーム「チームで参加すると大変な部分も多いですが、その分**一位になったときの嬉しさはとても大きい**です。この大会に参加することは**良い経験になる**と思います！」



とん勝つチーム（左から、ホン・ジュンソンさん、シン・ダビンさん，チョン・ウンギョさん）

TOMONI運営担当（柴田先生）

取材者「TOMONIは**どのような意図で**計画された大会ですか？」

柴田先生「ステージに立つことを目標として頑張ることによって、**日本語能力を一気に高めるために**準備しました。また、発表する人たちだけでなく、それを観ている学生たちが『自分もあんな風にステージに立ってみたいな』とか、『あんな風に上手に発表してみたいな』と思うことで、**新しい目標を決めて出発できるようなイベント**にしたいという思いがありました。今回、**朗読大会とプレゼンテーション大会の二つを用意した理由**は、学生たちが**自分のタイプに合ったものを見つけて参加できるように**するためです。」

取材者「**次の参加者に一言**お願いします。」

柴田先生「**来年度も面白い企画を用意**しますので、**募集が始まったら、迷わずに参加してみてください**ね。**挑戦することによって成長できるんです**。挑戦しないと始まりませんよ！」

学部長（キム・ヨンガク先生）

取材者「**学生たちの発表**はどうでしたか？」

キム・ヨンガク先生「**学生たちの日本語能力**がとても**高くてびっくりしました**。ある学生は、教授たちの講義に劣らない素敵な発表を見せてくれたりもして衝撃を受けました。特に1年生たちは入学したばかりなのに日本語がとても上手だと思いました。日本語が上手に話せることと、人前で日本語を使って発表することは感覚が全く違うと思いますが、**発表も自然に行ってくれて**驚きました。」

取材者「TOMONIを通して**学生たちにどんなことを学んでほしい**ですか？」

キム・ヨンガク先生「大勢の人の前で発表する機会はあまりないじゃないですか。だから、このような大会を通して学生たちは、多くの人の前で発表する機会が増えるんです。社会に出ると、大勢の前で自分の意見をきちんと話すことが出来る能力が必ず必要になります。なので、この大会が、学生たちが**多くの人の前で自信を持って話すことができるようになる**のに役に立ったらいいなと思います。」

取材者「**次回TOMONIに参加する方**に向けて**一言**お願いします。」

キム・ヨンガク先生「次の学期（2021年2学期）にはUCCとアフレコ大会があります。**上手か下手かに関係なく、恥ずかしくても一度参加してみると、それを乗り越えるきっかけになる**と思います。大会に出場することで自分に自信を持てれば『私にもできる！』という気持ちが自然に湧いてきますよ。もう1つアドバイスをすると、発表するときに「一方的な伝達」ではなく、聞く人のための配慮、つまり相槌を上手にしなければなりません。日本は韓国より相槌を良くする国です。**なので二人以上で発表をする時**には、**発表者同士で適切に相槌を打つ必要があります**。そうすれば、より良い発表になるでしょう。」

Q6. 最後は学生記者の意見です！

井上佳奈（いのうえかな）さん

TOMONIを通して、**発表した学生たちの日本語能力が向上した**のはもちろん、**観覧していた学生たちも日本語をもっと頑張れるきっかけになった**のではないかと思います。私自身、**日本人学生**なのですが、韓国人の学生さんたちが一生懸命発表している姿を見て、とても**刺激を受けました。もっと韓国語の勉強をたくさんしなければならない**なあと、改めて実感する良い機会になりました。

それから今回の大会に、**現役アナウンサー**の方も審査員として**日本から参加していらっしゃいました**。個人的には、日本の現役アナウンサーの方が発表を観てくださるなんて、**とてもすごい**ことだと思います。

発表した学生たちの日本語能力が素晴らしくて発表が終わった時、今よりもっと日本語を頑張らなければいけないなと思いました。**何よりも、TOMONIという名前に似合う大会**だったと思います。特に、**なるほどランキングで、一般参加者もイベントに参加できるようにした**のがとても良かったと思います。コロナの影響で落ち込んでしまって、やる気も出ない人もいるかもしれません。そんな人でも、TOMONIの発表者たちの姿を見れば、**「みんな頑張っている」、「もしかすると、私にもできるかも！」**と思えると思います。

シン・ダビンさん

-学生記者：井上佳奈（20182981日本語融合学部）、シン・ダビン（20200208同左）

-指導教員：柴田文武（日本語融合学部）、水沼一法（同左）

―おわり―